

第16回ハセツネ30Kを開催しました

2024年3月31日に東京都あきる野市、檜原村の戸倉三山をコースとして第16回ハセツネ30Kを開催しました。エントリー数1,627名、出走者は1,356名、制限時間内完走者は男子844名、女子93名、合計937名で、完走率は69.10%という結果となりました。男子総合優勝は近江竜之介選手(2時間58分31秒)、女子総合優勝は吉住友里選手(3時間40分49秒)でお二人とも初めてのハセツネ30Kでの優勝となりました。大会数日前までは冬のような寒さが続いていたところ、大会当日は突然初夏を思わせるような暑さとなり、多くの選手がまだ暑さに身体が慣れない中で、大変厳しいレースとなりました。しかしながら、大きな事故もなく無事終了いたしました。参加された選手の皆様、支えていただいたスタッフの皆様、ご協賛いただいたスポンサーの皆様へ深く御礼申し上げます。今回のハセツネ30Kでは、主催する日本山岳スポーツ協会が新体制となって初めての大会となりました。新体制下で多くのスタッフに

企画段階から積極的に参加していただきました。これにより、多様な意見を大会に活かすことができました。また、スポンサーの皆様にも大変積極的に人的、物的ご協力をいただき、大会を大いに盛り上げていただきました。来年の17回大会は2025年9月にスペイン・アラゴン州で開催される2025マウンテン&トレイルランニング世界選手権のショートトレイル部門での日本国内での先行レースとされています。より注目度が高まると思えます。都岳連の皆様もどうぞ応援よろしくお願いたします。

トレイルランニング委員会 原 誠一郎



会員交流会を開催しました

3月20日、筑波山にて2023年度2回目の会員交流会を開催しました。今回はカタクリ、ニリンソウ、キクザキイチゲなどの花を愛でる目的で、自然保護委員会から講師を招いて実施しました。9時にJR水戸線岩瀬駅に集合し、バスで移動して、薬王院コースから男体山、女体山を経由してつじが丘まで歩きました。今回はお花の時期には少し早かったようで、キクザキイチゲとスマシレシカが見ることができませんでした。カタクリはほとんどが一枚の葉っぱだけで、1つだけつぼみがあるものがありました。でも、かしの実の根でかた、あおきの茎での光合成、幹の虫の退治法など、自然に関する話をいろいろ講師から聞きながら歩きました。心配された雨も男体山の手前でパラパラときましたが、レインコートを着る間もなくあがってしまいました。御幸ヶ原で長めの休憩をとり、昼食やトイレをすませました。そこが冷たい北風が吹いていて一番寒かったです。一時は風雨が強まるようなら、女体山をピストンして御幸ヶ原から筑波神社の方へ下山する案もでま

したが、女体山に着くころには風も緩やかになり、予定通りつじが丘まで下山できました。今回は、会員8名、講師2名、サポート(自然保護委員会から4名、プロガイド委員会から1名)5名、スタッフ1名で計16名の参加でした。会員の内訳は、個人会員2名、加盟団体の会員7名の参加でした。今後も会員交流会を定期的に開催していきたいと思っております。皆様是非ご参加ください。

会員委員会 委員長 末廣 八千代



加盟山岳会紹介・会員番号 80 ～アルペンクラブ・アルファ～

アルペンクラブ・アルファは1960年に浅草の下町で登山同好の若者が集まり生まれた山岳会です。現在20～80代まで70名程の会員数で、四季を通じてハイキング、縦走、バリエーション、沢登り、クライミング、雪山、BCスキーなど、オールラウンドな山行を続けています。以前(昔)は山域を決め地域研究や冬壁を目指す活動も行っていましたが、その名残というべきか、年間山行計画をたて、会山行として春、夏、冬合宿を行ない、毎年会報も出せるように努めています。初心者、新入会員対応で体験入会、訓練山行の実施など会員の育成にも力を



2024年GW立山BC雷鳥沢合宿にて

を入れて、山行届・下山報告を会員サイトからPC、スマホで連絡できるように整えつつ、個人企画の山行も活性化しよう活動しています。集会は月2回火曜、水曜日に秋葉原周辺で行ない、内一回はパーティールームで飲食を交えて会員要望の講習をするなど、会員のスキルアップ、親睦と雰囲気作りにも努めています。会員の高齢化、リーダー不足、継続性は他会を含め総合的な問題です。会を続けてくことが安全や啓蒙につながるだけでなく、登山を通しての共感や、お互いを尊重し信頼関係を築きながら登山技術を学び高め合う場につながってほしいと願っています。HPの更新、山岳会間の情報共有、ボランティアとしての山岳会独自の役割はまだいろいろあるのかもしれませんが。仲間を見つけない、興味のある方は集会を覗いてみてください。また、当会のホームページは <https://ac-alpha.sakura.ne.jp> です。

アルペンクラブ・アルファ代表 菅沼 俊吉

このゴールデンウィークは山岳事故が多発しました。山にコロナ禍前の賑わいが戻って来れば必ずと山岳事故も増えてきます。さらには今年熊の被害が数多く報告されています。山岳スポーツは自然が相手なので、フィールドに出たらいつでも真剣勝負。自然の素晴らしさと怖さを熟知して、楽しんで行きたいと思えます。都岳連は昨年、新三役と新理事に代わって早一年、この通信二号では五月末に開催された第十二回通常総会の報告を掲載しました。また今後も各委員会の教室等が数多く開催予定ですので、都岳連通信で発信していきます。気象庁の予報によると昨年と今年も暑く暑い夏が来そうなので、都岳連通信で発信していきます。私達は体調に十分注意して責任ある行動を取らないといけませんね。

出版委員会 星野 恒行

編集後記



公益社団法人 東京都山岳連盟

〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-10 パークサイドセブン2F

Tel/03-3526-2550 (月～金13:00～17:00) Fax/03-3526-2551(常時) <https://www.togakuren.com> E-mail:lej04543@nifty.com



2024年2号

公益社団法人 東京都山岳連盟

TMF とがくれん通信

写真：個人会員 児玉 礼/雷鳥沢より立山(雄山)



奥多摩トレイルマップ作成、山岳遭難事故防止対策に取り組みます

第8回「山の日」全国大会TOKYO 2024開催のタイミングに合わせた、奥多摩での山岳遭難事故防止に向けた活動のその後の状況をご報告いたします。

まず、奥多摩での山岳遭難事故防止活動を青梅警察署が管轄する地域から進めようとしています。山岳連盟は山に登る立場ですが、奥多摩の山を楽しむ人と対峙し奥多摩の自然環境の保全・整備、紹介にあたっては、東京都水道局、同環境局の多摩事務所、東京都レンジャー、奥多摩ビジターセンター、奥多摩町観光協会、環境省奥多摩自然保護官事務所の皆さまなどです。そしていざ遭難事故が起きた時に救助捜索にあたっておられるのは、青梅警察署奥多摩山岳救助隊、奥多摩消防署山岳救助隊の方々です。

事故防止に向けて、遭難事故の発生状況とその原因、事故防止の情報を発信するため「奥多摩トレイルマップ」を日本スポーツ振興センターの助成金を活用して作成します。

さきにご紹介した関係先の皆様と意見交換、打合せを重ねています。トレイルマップは印刷物以外にデータをネット上や登山現場でもQRコードから提供を考えています。地図裏面には遭難事故防止、安全登山のための情報を掲載します。

地図面：事故発生ポイントをマップ上にプロット、事故情報を態様別マークで表記し、事故レベルを色で表わす分かりやすい表記法を関係者間で詰めています。情報面で紹介する1年分の事故情報は全事故を時系列で紹介するのではなく、主要なエリア・山ごとに分けて事故態様と事故のレベル、遭難者の性別年齢、単独かなどの特徴が把握しやすいように整理をしています。

裏表紙：都岳連メンバーでジオグラフィカ開発者の松本圭司氏作成の現在位置が把握できるアプリや登山届コンパスにアクセスできるQRコードを記載するなど、7月下旬の完成に向けて6月は関係メンバーが悪戦苦闘しながらも頑張っています。山の日を前に会員の皆様にお届けすることを予定しています。

2024年6月 公益社団法人 東京都山岳連盟 会長 廣川 健太郎

第12回通常総会のご報告

去る5月28日、オリンピック記念青少年総合センターで、第12回通常総会が行われました。今回は、加盟会員や個人会員の皆様にZoomによる参観を呼びかけました。画面越しではありますが、この都岳連総会を身近に感じていただけたら嬉しく思います。さて、議事に先立ち、廣川健太郎会長のあいさつがあり、続いて来賓のJMCSA専務理事・小野寺奇様、また、オーセンティックジャパン取締役・若村勝昭様からごあいさつを頂きました。その後、議長に久保田賢次さん、副議長に沢口裕子さん(個人会員)が選出され、議案書にそって総会が進行されました。大雨と強い風で足元の悪い中ではありましたが、80名を超す正会員の出席(議決書、あるいは委任状提出を含む)があり、第1号議案「2023年度決算報告、及び監査報告」、第2号議案「会員入会規程の改定」の2議案が賛成多数で承認されました。新型コロナウイルス感染症が5類に移行された最初の年度である2023年度でしたが、事業及び決算とも、流行前の水準にほぼ戻ったことが報告され、参会の正会員からは安どの様子が見られました。

また、これまで個人会員の入会時の年齢を18歳以上としましたが、これを親権者の承諾があれば16歳以上とするになりました。今後、登山を愛好し未来の登山界を担う若者を個人会員としても迎えることができるようになりました。安全登山の普及の観点からも適切な改定であると思います。以上、簡単ですが第12回通常総会の報告とさせていただきます。総務部長 松本 敏



第10回スポーツクライミング東京選手権大会開催 報告

日時：2024年4月20日(土)～21日(日)
開催地：東金町運動場スポーツクライミングセンター(東京都葛飾区)

10回目となる大きな節目の大会を無事終えることができました。これは、何よりもボランティアスタッフのみなさま、育成事業という性格ゆえに、なかなか収入を得ることのできないSC局を常に支えてきてくださっている東京都山岳連盟のみなさまのおかげであり、心から感謝しております。

大会としては天候に恵まれ、ほぼ予定通りに進めることができ、国スポの代表選手や強化選手選考もより明確になったのではと思っておりますが、一方で外部要因により、大会進捗に影響があったことが悔やまれるところですが、こちらは次回への課題としていく所存です。また、今回は第10回開催を記念して、初めて「オリジナルTシャツ」の販売にも踏み切りましたが、非常に好評を得ることができましたので、選手育成のための収入源として今後も継続出来ればと考えております。

活き活きと働くボランティアスタッフのみなさま、真剣な表情で一手を出す選手のみなさまの表情を見ることができ、大会開催そして継続の必要性を再認識しています。これからも本大会を継続し、パリオリンピックを目指す東京都出身の野中生萌選手に続く選手を輩出していけるよう努力して参りますので、応援のほど、よろしくお願いたします。

スポーツクライミング局 局長 栗田 季慎子

各リーダーたちからの声

- TD (兼：大会実行副委員長)：百瀬恭平さん**
競技運営については概ね順調。天候にも恵まれ良かったです。
- 審判長：栗田祥司さん**
大きな問題はありませんでしたが、ジャッジングに関して各々の中でプレがあると感じたため、競技開始前に意識統一の意味で認識のすり合わせと確認の必要性を感じました。各ルートジャッジはボルダー、リード競技共に、ムーブ、手順への考察など日頃から研鑽し知識や見識を養い、疑問点があれば競技開始前に各ルートセッターに問い合わせていきましょう。
- 会場設営 (前ジュニア強化委員長)：笹原将司さん**
準備日から大会当日までの流れを想定しておおかげで、設備の移動や撤収がスムーズに行われ、イレギュラーな解錠遅延にも多くの父兄の助けがあり、スピーディに対応できました。今後は、大会開催途中の雨天対策も多少視野に入れたテント配置を検討する必要と感じています。
- 救護：三井愛さん**
成人選手よりジュニア選手に負傷が多い事が気になりました。未熟な落ち方、身体の発達と見合わない強負荷、もしかすると親の期待、逆に「いつものことだからそれくらい大丈夫でしょう」という親の怪我慣れ、ジュニア競技全体として見直していく必要があるかもしれません。
- 総務：長田佐恵子さん**
・審判とビレイヤーが常に着用できるユニフォーム購入を検討してはどうか？
・TOTO向けの対応はスムーズに対応できた。
・更に参加選手を増加させるためには、募集期間と周知範囲を広げてはどうだろうか。

<リード協議前の
オブザーベーション風景>

<リードスタッフ集合写真>

<第10回記念Tシャツ>

<ボルダー競技風景>

杉山修の山と版画の世界

第10回

今から50年前、1970年代のことです。当時はヒマラヤにはまだ地図の空白部があった。現地に行かなければ地形が分からない。偵察隊を出して準備を進めてきた。何年も掛けて調べ上げいざ登頂をめざした。

時代はまったく変わった。現在は情報も通信も装備も格段と進歩して、しかも少人数で行動出来るようになった。困難さは変わらないが組織形成が変わった。エージェントが現地手配を仕切って隊員達の煩わしさがなくなった。昔の時代を見てきた私達にはノスタルジアの世界だ。時代はどんどん変化してゆく。

さて今回の版画は「エベレスト街道を行く」です。砂埃が酷くてマスクをして歩きました。ナムチェバザールを過ぎると荷役はゾキョからヤクに代わります。ポーターとヤクに助けられて旅を続けます。遠くエベレストがのぞめるようになります。いよいよ酸素が薄くなり始めます。空は宇宙が見えるのか群青をいうより黒くさえ見えます。私はゴーキョピークを目指して歩きました。そのときの風景です。

世界中からその頂を目指して登山家が集まります。登頂者数は累計9100人になりました。サウソコからは交通渋滞が発生するそうです。昨年だけで17名が亡くなりました。リスクはすこしも減っていないということです。

杉山 修/1946年東京、下町生まれ。
好山会会員、日本山岳協会代表幹事、日本版画院同人、日本山岳文化学会会員

【展覧会のご案内】
モンベル御徒町店4Fサロンで私の展覧会を開きます。遊びに来て下さい。
展覧会期間/7月27日(土)～8月11日(日)
時間/11:00～20:00 (但し初日は正午から・最終日は16:00まで)
お問合せ/ Tel 090-5440-4552
ホームページ/ <https://osamuhanga.com> Eメール/ sugiyama@osamuhanga.com

優待施設紹介

甲子温泉 旅館「大黒屋」 白河藩主松平定信公が愛した奥甲子の一軒宿

甲子(かし)温泉の歴史は、伊豆国の州安和尚が白河の関よりこの地に入ったとされる至徳年間(1384年)まで遡ります。州安は老翁から霊泉ありと教えられ源泉を見つけました。その後、慶長5年(1600年)の冬に会津藩生家の浪人菊池大隈吉が猿を撃ち、その血痕を追跡してゆくとその猿が湯浴して傷を洗い癒していたことから人々の関心が高まったと言われています。

寛永13年(1636年)には大隈の子・将監高吉がそこに温泉を開発し、白河城主より湯守に任じられました。州安が湧湯を発見したのが至徳元年甲子(きのえね)の年にちなみ甲子温泉と名付けられ、白河藩主松平定信公が愛した温泉郷として広く知られるようになりました。

旅館「大黒屋」は日本秘湯を守る会・日本源泉湯を守る会の会員として、心休まる「おもてなし」を大切にしています。古き時代の面影を残した本館に加え、松平定信翁の別邸であった「勝花亭」、さらに「共楽亭」、「前荘」の3つの離れ家があります。東北の吟味された食材を活かした四季折々の料理も自慢です。日帰り入浴と昼食も気軽に楽しめますので、ぜひ一度お立ち寄りください。



150年の歴史をもつ
大浴場「大岩風呂」

全国優待施設案内

- ◎宿泊施設
 - ◎奥多摩/三条の湯
 - ◎奥秩父/雲取山荘
 - ◎富士山/三ツ峠山荘、トモ工館
 - ◎谷川岳・関東/谷川岳肩ノ小屋、永楽荘、谷川温泉(株)旅館 たにがわ、孺恋の宿 あいさい、土合山の家、下仁田 荒船の湯
 - ◎日光/日光澤温泉、スパ・ビレッジカマヤ、日光湯元温泉(株)奥日光小西ホテル
 - ◎浅間/天狗温泉 浅間山荘
 - ◎尾瀬/山ノ鼻小屋、尾瀬小屋、燧小屋
- ◎新潟/笹原館、燕温泉(有)ホテル花文、赤倉温泉大野天風呂「滝の湯」
- ◎丹沢/蛭ヶ岳山荘、みやま山荘
- ◎八ヶ岳/蓼科山頂ヒュッテ、赤岳天望荘、ヒュッテ夏沢、美濃戸山荘、八ヶ岳山荘、八ヶ岳オーレン小屋、ペンションさんどりよん
- ◎北アルプス/明神館、太郎平小屋、薬師沢小屋、高天原山荘、スゴ乗越小屋、みくりが池温泉、雷鳥沢ヒュッテ、らいちょう温泉雷鳥荘、ロジック立山連峰、大和リゾート(株)Royal Hotel 長野、中房温泉、殺生ヒュッテ、新穂高温泉 ひがくの湯と登山者食堂、白馬八方温泉
- ◎中央アルプス/ゲストハウスみんなのいえ 赤石温泉
- ◎南アルプス/北岳肩ノ小屋、山彦荘、赤石温泉
- ◎東北・北海道/八幡平高原ホテル、アルプ天元台、八甲田山荘、飯豊山荘、竜山荘、三斗小屋温泉 大黒屋、酸ヶ湯温泉、ペンションあるべじお、八幡平リゾート(株)八幡平マウンテンホテル、(株)宿かり屋ドッドコム 焼走り国際交流村、(有)元湯甲子温泉 大黒屋、十勝岳温泉、(株)社凌雲閣
- ◎関西・中国/ホテル大山 しろかね、ペンションいぶき、皆生温泉(株)三井別館
- ◎四国/剣山頂上ヒュッテ
- ◎登山用具販売店 神田/さかいやスポーツ
- ◎クライミングジム 西東京市/クライミングジム GIRI.GIRI